

山形県

大学における教育研究活動と子育ての両立



大森 桂さん

国立大学法人 山形大学
学術研究院(地域教育文化学部担当)
教授

東京都八王子市出身。2002年山形大学に専任講師として着任。
2007年に准教授、2017年に教授就任。専門は食生活学。
長年、夫は東京に単身赴任で、平日は息子3人(12歳、9歳、5歳)と山形暮らし。

山形大学に着任後、大学の男女参画に関する制度が少しずつ整備され、3人の子どもの出産・子育てという個人的なライフイベントがちょうど重なり、様々な新しい支援を受けることができたのは幸運でした。支援を受けるには忙しい中でも様々な書類を整える必要がありますが、次の方々のためにも頑張って申請してきました。

具体的には、研究支援員の配備、延長保育料や学会出張時の子育てサービス利用料の補助等を主にこれまで利用しています。経済的負担や仕事量の軽減に有効だけでなく、精神的負担の軽減にもつながっています。子どもの体調変化等も考慮して臨機応変に行動する等の精神的タフさも鍛えられたと思います。昨年度は大学のサバティカル制度を利用し、子どもを連れて渡米。自分自身が社会に必要とされていることを実感し、やりたい事を実現できる瞬間の

あることが、子育てと仕事の両立に立ち向かう原動力になっていると思います。そして、協力してくれる子ども達と夫に感謝しています。



東京都

仕事も子育ても自分らしく



小松 美穂さん

株式会社大塚商会
人事総務部総務課
主任

1998年 入社 営業部配属 2013年 第2子出産
2007年 第1子出産 2014年 復帰
2008年 復帰 総務課に異動

2007年に第1子、2013年に第2子を出産しました。第2子を出産した際には育児短時間勤務制度を利用していましたが、同じ仕事をしていた先輩が退職することもあり、1年でフルタイム勤務に戻ることになりました。当初は仕事に追われる時もありましたが、仕事は常に「優先順位」「効率的な業務」「タスク管理」「共有」を意識して、翌日に残さないように心がけたことにより、仕事をうまくまわせるようになりました。

子育てをしていると、体調不良による早退や急にお休みをいただくことも多く、その度に申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、上司や同僚が「子どもが小さい時は仕方ないよ」と声をかけてくれ、フォローしてくれて本当にありがたかったです。

現在は、後輩指導を行ないながら責任のある業務も任せていただき、オン・オフをしっかり切り替えながら、仕事も子育ても充実した日々を送っています。



会員企業で活躍されている社員の方々のキャリア、働く上で心がけていること、仕事と生活の両立の知恵などをご紹介します。
ワークもライフも自分らしく生きる!等身大のメッセージをみなさまへ。

愛媛県

感謝の気持ちで充実した日々



矢野 恭子さん

株式会社フジ
販売企画・マーケティング部
営業支援課 課長

2004年 入社 2011年 職場復帰
2010年 出産 2017年3月より、現部署に異動

出産・育児休業後、家族の後押しもあって、フルタイム勤務で職場復帰し、異動を経て、現在は所属部署での業務をしながら、女性ならではの感性や生活者の視点を活かしたお客様の「くらしの中の小さな幸せづくり」をテーマとした女性のチカラプロジェクトのメンバーとして商品開発や販促物作成の活動をしています。プロジェクトに参加して、社内にこんなにも元気で、素敵な女性がたくさんいて活躍していることに驚き、心強く感じました。

出産後、今日まで本当に充実した日々を過ごしています。出産するまでは子供を産むとキャリアアップが難しくなると感じたこともありましたが、子育てをするようになり、これまで気づけなかった視点で考えられるようになりました。今私は子供を産んでよかったと心から思っています。これからも、職場と家族の理解と協力に感謝を忘れずに私らしく過ごしていきます。そして、これから両立をされる方々へ繋いでいければと思います。



編集後記

記事掲載にご協力くださった皆様ありがとうございます。今年の夏は厳しい暑さが続いたと思ったら、急に涼しかったり...全国の地域で異なると思いますが、気候の変動が激しかったように感じます。溜まった疲れを秋に引きずることのないように上手にリフレッシュしたいものです。

さて、今号の表紙は、新デザイン(四季シリーズ)の「秋バージョン」です。是非、前号の「夏バージョン」と並べてご覧ください。お手元に届いてのご意見、ご感想などお待ちしております。㊦

ダイバーシティ 21

DIVERSITY 21 vol.030

2017年9月25日発行

編集・発行

公益財団法人 21世紀職業財団
〒113-0033

東京都文京区本郷1-33-13
TEL 03-5844-1660(代) FAX 03-5844-1670
<http://www.jiwe.or.jp>